

### 第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選び、正確に記入すること。

現金	普通預金	当座預金	受取手形	売掛金
前払金	仮払金	貸付金	建物	支払手形
買掛金	貸倒引当金	前受金	仮受金	借入金
売上	受取利息	償却債権取立益	仕入	旅費交通費
租税公課	発送費	修繕費	貸倒損失	支払利息

1. 一昨年度に購入した備品（パソコン）が故障したため、その修理費用として¥14,000を現金で支払った。
2. 店舗にかかる固定資産税の第2期分¥42,000を銀行にて現金で納付した。
3. 得意先鳥取商店に商品¥364,000を売り渡し、代金のうち¥245,000は注文時に受け取った手付金と相殺し、残額は掛けとした。なお、発送のための費用（当店負担）¥4,690は現金で支払った。
4. 得意先神奈川商店が倒産し、前期の売上げにより生じた売掛金¥22,400および当期の売上げにより生じた売掛金¥14,000が回収できなくなったので、貸倒れの処理を行う。なお、貸倒引当金の残高は¥25,200である。
5. 従業員の出張にあたり、旅費の概算額¥168,000を支払っていたが、本日、帰店したため旅費の精算を行い、残額¥27,300を現金で受け取った。

### 第2問 (10点)

次の6月中の取引等にもとづいて、下記の(1)～(3)の間に答えなさい。なお、当店は得意先元帳（売掛金元帳）および商品有高帳を補助元帳として用いている。

6月1日 前月繰越は、次のとおりである。

A商品 50個 @¥4,340 ¥217,000

売掛金¥420,000（うち、奈良商店¥280,000 兵庫商店¥140,000）

11日 兵庫商店に、A商品30個を@¥4,760で売り渡し、代金は掛けとした。なお、発送運賃（先方負担）¥2,100は当店が現金で立替払いし、同店に対する掛け代金に含めて処理した。

18日 鳥取商店からA商品120個を@¥4,480で仕入れ、代金は掛けとした。

26日 岡山商店にA商品90個を@¥4,690で売り渡し、代金は同店振出しの小切手で受け取った。なお、発送運賃（当店負担）¥4,200は現金で支払った。

30日 奈良商店より¥280,000、兵庫商店より¥140,000の掛け代金を現金で回収した。

- (1) 商品の払出単価の決定方法として先入先出法を用いて、A商品の商品有高帳を作成し、締め切りなさい（摘要欄には商店名を記入し、受け入れたさいの残高欄には受入直前の残高も合わせて記入すること）。
- (2) 6月のA商品の売上原価および売上総利益を答えなさい。
- (3) 得意先元帳における兵庫商店勘定の月末残高を答えなさい。

第3問 (30点)

鳥取商店の1月中の取引は【資料1】と【資料2】のとおりである。(1)同取引を集計し、[月中取引高]欄にその集計額を総額で記入し、[期首残高]の金額を加算した上で求めた、各勘定の借方および貸方合計を[1月末合計]欄に記入し、試算表を完成するとともに、(2)1月末の売掛金および買掛金の明細表を完成しなさい。

【資料1】 補助記入帳の記入状況 (なお、同一の取引が複数の補助記入帳に記入されている場合があるので、注意すること)

現金出納帳

30年	摘 要		収 入	支 出	残 高
1	1	前期繰越	136,500		136,500
	5	保険料の支払い		6,300	130,200
	8	兵庫商店へ売上げ	31,500		161,700
	15	京都商店から掛代金の回収	22,050		183,750
	25	給料の支払い		22,680	161,070
	26	当座預金からの引出し	79,800		240,870
	28	消耗品費の支払い		11,970	228,900

当座預金出納帳

30年	摘 要		預 入	引 出	残 高
1	1	前期繰越	598,500		598,500
	10	受取手形の決済	56,700		655,200
	15	備品の購入		126,000	529,200
	20	支払手形の決済		96,600	432,600
	26	現金の引出し		79,800	352,800
	27	従業員からの仮受け	37,800		390,600
	29	地代の受取り	3,150		393,750

売 上 帳

30年	摘 要		金 額
1	6	京都商店 掛	58,800
	8	兵庫商店 現金	31,500
	19	兵庫商店 掛	134,400
	21	兵庫商店 返品・掛	4,200
	23	京都商店 約手受取	75,600

仕 入 帳

30年	摘 要		金 額
1	7	奈良商店 前払金	6,300
	9	石川商店 約手振出	65,100
	11	奈良商店 掛	105,000
	13	奈良商店 返品・掛	3,360
	25	石川商店 掛	81,900

【資料2】 補助記入帳に記入されない取引

- 1 / 1 前払保険料勘定の期首繰越額を保険料勘定に振り替える。
- 〃 未収地代勘定の期首繰越額を受取地代勘定に振り替える。
- 15 石川商店に対する買掛金¥35,700の支払いのため、約束手形を振り出した。
- 31 奈良商店に対する買掛金¥48,300の支払いのため、約束手形を振り出した。

#### 第4問 (10点)

次の文の ( ア ) から ( オ ) に当てはまる最も適切な語句を下記の語群から選び、答案用紙に記入しなさい。

- 減価償却の記帳方法として、建物の減価償却額を減価償却費勘定の借方と ( ア ) 勘定の貸方に記入する方法を間接法という。
- 当店が振り出した約束手形について、支払期日に決済した場合、このことを支払手形記入帳の ( イ ) 欄に記入する。
- 貸借平均の原理にもとづき、総勘定元帳への転記が正しく行われたかどうかを確認するため、もしくは期末の決算手続きを円滑に行うために作成する表を ( ウ ) という。
- 得意先元帳とは、得意先ごとの売掛金の増減を記録する ( エ ) である。
- 貸倒引当金は、売掛金から差し引く形で貸借対照表に表示する。これは、貸倒引当金勘定が売掛金勘定の ( オ ) 勘定であるからである。

(語群)

棚卸表	総勘定元帳	建物	評価	諸口	補助記入帳
仕訳	統制	仕丁	転記	試算表	摘要
元丁	てん末	損益	補助元帳	建物減価償却累計額	

#### 第5問 (30点)

次の(1)決算整理前の総勘定元帳の各勘定残高、(2)決算整理事項等にもとづいて、貸借対照表と損益計算書を完成しなさい。なお、当会計期間は平成29年1月1日から同年12月31日までの1年間である。

##### (1) 決算整理前の総勘定元帳の各勘定残高

現金	¥ 124,600	現金過不足	¥ 2,310	当座預金	¥ 368,130
定期預金	420,000	受取手形	528,500	売掛金	238,000
繰越商品	435,400	建物	2,310,000	備品	525,000
土地	707,700	買掛金	555,100	借入金	924,000
建物減価償却累計額	831,600	備品減価償却累計額	157,500	貸倒引当金	8,400
資本金	2,450,000	売上	6,765,500	仕入	4,858,000
給料	883,400	旅費交通費	178,500	保険料	75,600
支払利息	36,960				

※ 現金過不足勘定は、期中に現金の実際有高が帳簿残高より不足していたため計上している。

##### (2) 決算整理事項等

- 得意先振出しの約束手形¥49,000の満期日が到来し、当座預金口座に入金されていたが、この取引が処理されていなかった。
- 現金過不足の原因を調査した結果、旅費交通費 ¥2,870の記入漏れが判明し、残額については原因が不明であるため、雑損または雑益として処理する。
- 受取手形および売掛金の期末残高に対して2%の貸倒れを見積もり、差額補充法により貸倒引当金を設定する。
- 期末商品の棚卸高は¥490,700である。
- 建物および備品について、定額法によって減価償却を行う。建物は耐用年数30年、残存価額は取得原価の10%とする。備品は耐用年数6年、残存価額ゼロとする。なお、備品のうち¥210,000は当期の7月10日に取得したものであり、月割計算によること。
- 定期預金は当期の8月7日に1年満期(利率年2.5%)で預け入れたものである。すでに経過した146日分の利息を未収計上する。なお、利息は1年を365日とする日割計算によること。
- 保険料は当期の7月1日に向こう1年分をまとめて支払ったものであり、未経過高を月割計上する。
- 給料の未払分が¥12,600ある。